

令和5年度市町村保健事業担当者研修会開催レポート

開催日 令和5年9月11日（月）14時～16時30分 Zoomによるオンライン開催

今年度の研修会は、昨年度同様、オンラインにて開催しました。高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施をテーマに、県国保医療課と国保連合会と共催で開催したところ、県内62市町村の他、県保健所等から申し込みがあり、187人の職員が参加しました。

○説明

広域連合から一体的実施の概要、国保連合会からKDBシステムの活用について説明を行いました。

限られた時間の中での説明となりましたが、疑問点についてはいつでもお問い合わせください。特に来年度より一体的実施に取り組む市町村の方は、事業の進め方やKDBの操作で悩むことも少なくないと思います。些細なことでも構いませんので、いつでもご相談ください。

○講演 『高齢者に対する個別的支援(ハイリスクアプローチ)の展開 ～低栄養・口腔の取組～』



神奈川県立保健福祉大学 田中和美教授

講演では、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科長・教授の田中和美先生に、講演を行っていただきました。

国の動向や事例を交えながら、効果的に事業を行うためのポイントや関係機関との連携の重要性等についてお話をいただき、保健（保険）部門だけでなく、介護部門から参加された方も興味を持って聞いていただけたのではないかと思います。また、対象者抽出基準や事業評価など、医療専門職の方々が事業を進めるうえで悩みの多い部分の説明では、今後の参考になることも多かったのではないのでしょうか。

今回の講演をきっかけとして、ハイリスクアプローチの取組がより効果的に進むことを期待します。

一体的実施は、地域の高齢者の介護予防・健康づくりのための制度です。広域連合では、市町村や県国保医療課、国保連合会とも連携し、一体的実施を推進してまいります。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- ・低栄養・オーラルが身体・社会的フレイルに繋がっていくので、食事の重要性についてよく分かった。
- ・あるべき姿と現状のギャップを縮める考え方、戦略的と問題解決の支援が学びになった。一体的実施だけでなく、どの事業にもあてはまると感じた。
- ・目標設定はその個人に合わせて、SMARTを意識しつつ、その人に出来ることを提案していく事と目的を意識して立てる事が大切であることが分かった。
- ・対象者の行動変容を促すためには係る医療専門職が先入観を持たず、アセスメントをすること、多角的な視点を持つことが非常に重要だと思った。
- ・広い視野を持ち、多職種・他機関と連携することや、事業の実施状況や必要性について見える化して説明することの重要性を学ぶことができた。